

## 広域ヨーロッパ研究センター20年度活動報告と21年度活動計画

### 1. 広域ヨーロッパ研究センター活動報告

#### ①広域ヨーロッパ研究センターの設立シンポジウム

- ・平成21年3月29日オープニング・セレモニー「転換期世界における広域ヨーロッパ」を開催し、クリニッチ駐日ウクライナ大使、オズカン・インディス工科大学教授、北村雄介NHK国際部記者らと交えて、広域ヨーロッパの現状について議論した。同シンポは『静岡新聞』にも紹介された。

#### ②「ヨーロッパのスペシャリスト」になるためのセンター所属教員の授業（リーフレット）

- ・学部学生のヨーロッパ理解を支援するため、広域ヨーロッパ研究センターの研究員が実施している授業科目の中から、学科およびコースを越えて履修できる科目のリーフレットを作成し配布した。

#### ③日本EU学会2008年度研究大会の運営ならびに特別セッションの開催

- ・平成20年11月21日、22日の2日間にわたり、日本EU学会2008年度研究大会を本学で開催し、広域ヨーロッパ研究センターが大会運営を全面的にバックアップした。日本EU学会は、1980年に正式に設立され、会員数約500名を擁する学際的な学会である。政治学、法律学、経済学、社会学等様々な専門領域のEU研究者から構成され、民間のシンクタンクや外務省等の官公庁のスタッフもメンバーに入っているところに大きな特徴がある。小久保副センター長が同学会の理事（年報編集委員長）であることから、本学での開催を学会理事会から要請され、実施するに至った。2日間で約150名が参加し、ベルギー・ルーバン大学のデルマルティエノ教授による招待講演を含め、共通論題「EUの環境ガバナンスとグローバル社会」について多面的に報告がなされ、熱心な討論が行われた。同学会の様子は、11月22日付けの静岡新聞に紹介された。
- ・また、広域ヨーロッパ研究センター主催の特別セッションを研究大会に組み入れてもらい、六鹿センター長、小久保副センター長、およびインスブルック大学客員教授のレイテラー氏が英語による報告を行った。

「特別シンポジウム：拡大EUと新たな近隣諸国」

Yasuyuki Kokubo, “European Neighbourhood Policy: its assessment and challenges”

Shigeo Mutsushika, “The Eastern ENP in the EU, WNIS and Russia Triangle”

Micahel Reiterer, “The EU and the ‘Barcelona Process: Union for the Mediterranean’”

#### ④講演会の開催

- 第一回 20年11月4日 講演者：チュグロフ（モスクワ国際関係大学教授）  
テーマ：「プーチンおよびメドヴェージェフ下のロシア外交」
- 第二回 20年11月日 講演者：カレロヴァ・リウボフ（ロシア科学アカデミー哲学研究所）  
テーマ：「日本とロシアの経済-労働倫理を比較する  
—「社会的責任」の先駆者渋沢栄一を中心に—」
- 第三回 20年11月25日 講演者：アンドレイ・ポポフ（モルドヴァ外交協会理事）  
テーマ：「共通の近隣地域におけるロシアとEU—協力が対立か」
- 第四回 21年2月18日 講演者：エティエンヌ・フランソワ（ベルリン自由大学/パリ大学名誉教授）  
ライナー・フーデマン（ザールラント大学教授）  
テーマ：「ヨーロッパ建設におけるフランスとドイツ」  
場所：東京日仏会館

#### ⑤文科省科研海外（A）「黒海地域の国際関係—4次元分析による学際的総合研究」研究会の開催

2008年7月5日、広域ヨーロッパ研究センターの研究員と日本黒海学会のメンバーが中心となって、本学国際関係学部棟において、黒海地域の国際関係研究会を開催した。

#### ⑥日本国際交流基金招聘研究院の受け入れと部局間協定締結

日本国際基金の招聘を受けたモルドヴァ共和国外交協会理事アンドレイ・ポポフ氏を、広域ヨーロッパ研究センター客員研究員として10月末から40日間受け入れ、12月に同協会との間で学術交流協定を締結した。

## ⑦モスクワ国際関係大学との学術交流の強化

廣瀬陽子研究員および島田孝夫研究員が同大学を訪問し、講義をはじめ学術交流を行った。他方、県大を訪問した同大学セルゲイ・チュグロフ教授と六鹿茂夫が日本政治学会にて各々、” Japanese Foreign Policy: Russian View” と” Russia-Georgian War and Japan’s Eurasian Diplomacy” と題して報告した。

## 2. 21年度広域ヨーロッパ活動計画

### ① 広域ヨーロッパ研究センター主催公開講座

「広域ヨーロッパへの誘い—思想、歴史、国際関係—」というテーマの下に4回の公開講座を行う。

第一回 21年10月3日 講師：小谷 民菜（センター研究員、国際関係学部准教授）

テーマ：越境者ハイネのまなざし—メルヒェンから世界史まで—

第二回 21年10月10日 講師：橋川 裕之（センター研究員、国際関係学部講師）

テーマ：ヨーロッパとキリスト教—古代から中世へ—

第三回 21年10月17日 講師：小久保康之（副センター長、国際関係学部教授）

テーマ：EU統合の歴史とその学問的意義

第四回 21年10月24日 講師：六鹿 茂夫（センター長、国際関係学研究科教授）

テーマ：広域ヨーロッパ国際政治と日本外交

場所：アイセル 21 静岡市葵生涯学習センター

### ② 「日本イスパニア学会 2009年度第55回大会」後援

同会は1955年に創設され、現在国外在住の会員も含め正会員約400名を数える、スペイン語圏に関する日本最大かつもっとも歴史のある学会である。10月10日（土）と11日（日）の両日、200名を超える研究者が日本全国から参集し、スペイン語という言葉、スペイン語圏の文学や文化、スペイン語教育に関する発表を各分科会に分かれておこなう予定で、この開催を後援する。

日本イスパニア学会とSPAC（静岡県舞台芸術センター）との共同企画により、静岡芸術劇場で9月末から10月初めまで2週間にわたって「ドン・ファン」—ファウストと並んでヨーロッパに流布していたスペインの「ドン・ファン伝説」、これを吸収し、ドン・ファンという人物を文学上の一典型として定着せしめたのがスペイン黄金世紀の戯曲『セビーリャの色事師と石の招客 *El burlador de Sevilla y convidado de piedra*』（1630）—が上演されるが、大会記念イベントとして10月10日大会参加者全員で観劇する。

公演後、学会主催によりドン・ファン劇に関するシンポジウム（静岡芸術劇場において）を行うが、演者として演出家オマール・ポラス氏（コロンビア出身でスイス在住、テアトロ・マランドロを主宰）、SPAC芸術総監督宮城聡氏、ならびに稲本健二氏（同志社大学教授）を予定している。

### ③ 広域ヨーロッパ教育カリキュラム履修モデルの作成

昨年度作成した「ヨーロッパのスペシャリスト」になるためのセンター所属教員の授業（リーフレット）をより充実したものにして、European Studiesを深めたいと思っている学部生が、学科、コースを横断して授業を履修する意欲を向上させるように努力する。

### ④ 講演会

第一回 21年11月12日 講演者：レインハルト・ドリフテ（ニューキャッスル大学名誉教授）

テーマ：広域ヨーロッパと中国

第二回 21年11月26日 講演者：コリーヌ・ドゥフランクス（フランス国立学術センター研究員）

テーマ：欧州統合過程における仏独共通歴史教科書（仮題）

### ⑤ 日本国際基金招聘研究者の受け入れ

カザフスタンの哲学政治学研究所大学院生ガイニ・セイサーノヴナ・ムフタローヴァ女史を、6月から一ヶ月ほど客員研究員として受け入れる。

⑥「黒海シンポジウム」開催予定

9月21日～22日、イスタンブールにて、黒海シンポジウムを開催予定。同シンポジウムは、文科省科研海外（A）「黒海地域の国際関係－4次元分析による学際的総合研究」の支援を受け、黒海学会のメンバーおよび広域ヨーロッパ研究センター研究員が中心となっていく。黒海地域の国際関係を、歴史、経済、政治、環境など多次元から分析・議論する。

⑦センターのウェブサイトの構築と運営

センターが運営するサイト (<http://www.widereurope.net>) に、センターの概要、活動予定および状況、講演会やシンポジウムの記録、広域ヨーロッパ教育カリキュラム履修モデルなどを掲載する。